

とうきょう すくわくプログラム実践報告書(八王子市)

施設名	八王子市立子安保育園
-----	------------

1. 活動のテーマ

<テーマ>

土

<テーマの設定理由>

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・5歳児を中心に、砂を使った泥団子作りが盛り上がりを見せている。水の加減や土の混ぜ方などを工夫する中で、「どうすればうまく作れるか」を自ら考え、試行錯誤する体験を重ねている。・今後、ただの土が工夫によって泥団子へと変化していく過程の中で、子どもたちの創造性が発揮され、ツルツルの泥団子が完成したときには、大きな達成感を味わうことができると考えられる。こうした体験を通して、子どもたちの探究心や創造力、達成感を育むことを目的に、今回のテーマを設定した。 |
|--|

2. 活動スケジュール

5月～ 土を使った泥団子作り→泥団子を丁寧に磨いていく→改良→泥団子作り…積み重ねていく
--

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・黒土、ふるい、ザル、コンテナ、布 |
|---|

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

春ごろから、砂場の砂を使って泥だんご作りに夢中になる子どもの姿が見られた。水の量を調整したり、白砂を集めたりしながら工夫を重ね、きれいな形の泥だんごを何度も作っていた。しかし次第に、砂場の砂ではピカピカの泥だんごを作ることが難しいと気づき、黒土を使うと作れることを知った。以来、黒土を使った泥だんご作りが始まった。

砂場の砂との違いを実感し、黒土のほうがきれいにまとまることに喜びを感じた子どもたちは、「明日も続きがやりたい」という声をあげ、泥だんごを保存するための収納ボックス作りにも発展していった。

日々、泥だんごを作る中で、水分量の調整や、保存時には乾燥を防ぐためにビニール袋に入れること、さらにピカピカにするには布で磨くことが大切であるといった工夫にも気づいていった。少しずつ泥だんごの様子が変化することを喜び、自分の泥だんごに愛着をもちながら、時間を忘れるほど夢中になって取り組んでいた。

また、コツをつかんだ子が、どのようにすると泥だんごが良い状態になるのかを周りの子に教え合う姿も見られた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

泥だんごがまとまってくると、子どもたちは愛着をもち始め、だんごに名前をつけ、まるで育てるかのようにピカピカになるまで丁寧に扱っていた。時間を忘れるほど夢中で遊び、片づけの時間になると「もっとやりたい」「また続きがしたい」という声が聞かれた。

丸めて固まってきた泥だんごも、乾燥によってひびが入り壊れてしまうことが続き、思うようにピカピカのだんごまで仕上げられず、途中であきらめてしまう子もいた。そこで保育者が試行錯誤を重ね、子どもたちが思い描くようなピカピカの泥だんごを完成させると、「すごい!」「触らせて!」「同じの作ってみたい!」と、子どもたちの意欲が再び高まった。

保育者からコツを教わり、一緒に作る中で、泥だんごが水分を含んでつやを帯びていくと、子どもたちはますます夢中になって泥だんご作りに取り組むようになった。毎朝、自分の泥だんごの状態を確認することを楽しみにし、友達や保育者とやり取りをしながら、遊びを継続している。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

ピカピカの泥だんごを目指して探究してきた。泥だんごが少しずつ変化していく様子に夢中になり、愛着をもち、遊びを継続させて盛り上がっていた。途中、遊びが停滞したものの、保育者がピカピカの泥だんごを作ることで、同じものを作りたいと憧れ、遊びが再び盛り上がった。年長児にとっては、保育者も夢中になって遊びこむことや、子どもたちのなりたいモデルになることで、遊びが変化するきっかけになることを学んだ。

一人で黙々と遊びこむだけでなく、コツを得た子が、他児に教えてあげる姿や、年下の子が興味をもった時には優しく伝授する姿があり、コミュニケーションを取りながら遊びを楽しめたことで、遊びも広がりをみせていた。